

新任教員研修における学習教育ワークショップの取り組み
—平成18年度新任教員研修報告—

大学教育開発研究センター 加藤かおり

新任教員研修における学習教育ワークショップの取り組み

—平成18年度新任教員研修報告—

大学教育開発研究センター 加藤かおり

1. はじめに

新潟大学新任教員研修は、平成17年度に第1回を開催し、本年は第2回目を開催した。

昨年度は、初回ということもあり、本学の教育理念、教育システム、組織運営体制、財務状況、研究支援体制、各種ガイドラインなど、教員が新潟大学の職員として理解しておくべきことの周知を目的の中心とするオリエンテーションのみの実施であった。

本年度は、昨年研修実施後の講師を担当した理事との省察および次年度打ち合わせにおいて、さらに具体的な教育方法に関わる研修が必要であるとの意見を受け、学習教育ワークショップを企画し、実行することになった。

本論では、この学習教育ワークショップを中心に、その取り組みの状況について報告し、今後の課題を考察する。

2. プログラムの目的および目標

プログラムの目標は、オリエンテーションとして、「本学の教育理念および教育システム、組織と運営体制、教職員としての倫理や、健康管理の重要性などについて理解を深めるとともに、本学の執行部との意思の疎通を図る機会とする」こと、学習教育ワークショップにより、「新任の教員を対象に、学士課程教育としての教授学習のあり方および役割、目標達成型学習のための教育計画についての理解を深め、実践力の向上」を図り、「『学生の学習、理解を深める』授業づくりの基礎を習得する」こととした。さらに、プログラムとしての到達目標を、知識、スキル、態度・価値観の3つのカテゴリーに分けて設定した。具体的には、次のような内容をあげた。

(1) 知識の領域

- ①従来の教授中心の教育と、知識基盤社会に対応した学習中心の教育との違い、および後者の今日的意義を説明できる。
- ②目標達成型学習について、その意味を説明できるとともに、新潟大学の教育体制との関連性を示せる。
- ③授業観察の観点
- ④学習サイクル理論に基づく授業計画の枠組み
- ⑤適切なコミュニケーションの理論

(2) スキルの領域

- ①目標達成型学習のための教育計画を設計する。具体的にシラバスの作成（ねらい・到達目標の設定、成績評価方法および基準の設定など）など。
 - ②目標達成型学習のための授業計画を設計し実行する。
 - ③授業観察およびピアレビュー方法
 - ④「学生の学習」を深める授業プラン
- ### (3) 態度・価値観の領域
- ①学習者としての学生を尊重し、共に学びあう環境づくりを目指す。
 - ②教授学習についての自分自身の目標を明らかにし、その達成を目指す。
 - ③ピアレビューによる授業改善の意義
 - ④学生の理解を深める授業づくりの意義

3. プログラムの構成

研修プログラムは、第1部オリエンテーション、第2部学習教育ワークショップで構成された。学習教育ワークショップは、2日間で構成され、1日目は9月に、2日目は12月に実施された。2日間にしばらく間が設けられたのは、その間に①同分野の他の教員の授業を観察する、②1日目の授業計画（シラバス）をもとに、ミニ授業の実践を準備してることが課題となるためである。この構成は、第1日目で得た知識や情報を、実践を通して確認し、ふたたび振り返ることによって、確実に身につけるといふ、学習サイクルに基づく構成である。

(1) 学習教育ワークショップの構成

学習教育ワークショップのプログラム全体像は、添付資料の通りである。全体のファシリテーターを、加藤が務め、ファシリテーション・グラフィックによる記録およびテーブル・ファシリテーターを濱口センター長と津田教授が務めた。

1) 第1日目

ワークショップ事前の準備として、5、6人が1グループとなる机の島を必要数つくった。参加者は18名で、各自くじで席を決めて着席してもらった。パワーポイントでは、ワークショップの流れ、作業の指示、その場面ごとに必要な新情報を提示した。その他、必要な資料は机上に配布した。

出席の確認および挨拶の後、まず、はじめに「今日のプログラムの目標確認」として、参加者の自己紹介を兼ねて、それぞれが期待する成果を発言してもらった。ワークショップなるものへ初めて参加する方が多いこともあり、参加者自らがこのワークショップの主体であることを確認するためである。

次に、参加者がすでに保有している大学教育についての経験や知識に、新しく転換しようとしている「学習」に関する理解をつなげるため、「学習と教育（教授）の意味と違い」についての意見を書き出し、まとめる。そして、「何を教えるか」から「いかに学びを深めるか」への移行について、「知識基盤社会を背景とした学習理論、学習観の変遷」を踏まえた新情報を補足していった。その上で、現在本学で進めようとしている「目標達成型学習の意味」や、「本学の教育理念・教育体制とのつながり」、そしてその「国内外の動向における位置づけ」についての情報を提供した。

このような、「自己の経験や前知識」に「新情報」を付加した上で、それが参加者自身の知識として再構築されて、参加者自身のものとなるように進めた。「教授と学習のバランス」はどうか、「目標達成型の学習はなぜ必要か」について、グループで議論し、その結果をまとめて発表してもらい、全体での意見を参考にしつつ、「学習中心の教育における教員の役割、課題」を個人でまとめて記述し、模造紙に貼り出して共有した。

午後からは、「目標達成型学習のための教育計画」を、大学の教育目標、およびあらかじめ持参してもらったよう指示された個別の学部・学科の教育目標、担当科目のシラバスをもとに実践した。この場面では、最初に「シラバスとは何参加者の意見をもとに、全体での概念形成を行い、シラバスが「学生の目標達成型学習のためのツール」であることの共通認識を作った。その後、具体的な教育計画の実習として、個人作業で「1年次対象の全学科目」のシラバスシートを作成した。作成したシートを用いて、各グループで発表しあい、記載されたことの意図をより明確化するための質問や各シラバスをより良いものにするための提案を合った。その上で、各グループで「最もお薦めのシラバス」を全体で発表し共有した。

最後に、今日全体をふりかえって気づいたこと、最初に期待したことは達成されたかなどについて、1人1人発言し、それをセンタースタッフがファシリテーション・グラフィックにまとめていった。進行役より次回12月の案内と課題が提示され、振り返りシートの記入をして終了した。

2) 第2日目

第2日目は、第1日目に出された課題、①同分野の他の教員の授業の観察（観察の記録をシートに記入）、②1日目の授業計画（シラバス）をもとにしたミニ授業の実践の準備（パワーポイントなどで準備）を実施してくることを前提に実施された。前回同様、全体の

ファシリテーターを加藤が務め、他のセンター教員は参加者の一員として、意見を述べ、アドバイスを行うなど、ワークショップに貢献した。

具体的なプログラムでは、この日の参加者が5名と少なかったため、少人数だからこそ可能な、より個人々の状況に合わせて、理解を深めるような構成を心がけた。

まず、あいさつ及び今日の目標およびスケジュールの簡単な説明のあと、ミニ授業ビデオ撮りが行われた。最初に、授業観察の意義と手順の説明があり、①1人につき授業のプレゼンテーションを10分、②観察者（この場合他の参加者全員）が観察シートを用いた評価を、順に実施した。参加者全員のビデオ撮りと評価シートの記入が終了した時点で、場所を移動し、ビデオの録画を再生しながら、1人ずつ、①自己評価、②観察者による気づき及び改善の提案を実施した。

次に、参加者が「学生の理解を深める」、「学生に考えさせる」授業プランづくりについて考え、それを実際の自分の授業に適用できるようにするため、次のような手順で進めた。

まず、もう1つの事前課題であった「同分野の他の教員の授業観察の実施」の結果について、観察シートにある観点をもとに、授業づくりのポイントを発言しあい、加藤がファシリテーション・グラフィックにまとめていった。ここで出された観点について、大教センターから、新情報として「学習のサイクルに基づく授業プランの情報」、「振り返り（文脈づけ）、まとめ、課題（活動）、確認の学習サイクル」、「適切なコミュニケーション（グライス「協調の原理4つの公理」など）」を提供し、学生の理解を深めるための授業づくりの観点の幅を広げていった。

さらに、参加者は授業観察の実施での気づきや新情報から得た知識を使って、自分自身の授業プランを作る作業を行った。その際、知識を実行に転用するのは頭で考えるよりも困難なことであることに配慮し、いきなり個人作業をせずに、まずは、1人を事例に、レッスンプランを模造紙に書き出しながら、参加者全員でアイデアを出し合い再構成するという、ワンステップを取り入れた。その後、各自プランづくり、発表を行っては意見を出し合うというプロセスを繰り返した。最後に、1人ずつ全体の振り返りを（口頭およびシートの記入で）行い終了した。

4. プログラム実施の省察と今後の課題

プログラム実施の成果や課題について省察するため、ワークショップ終了時に参加者に振り返りシートを記入してもらい、その結果をもとに大学教育開発研究センターで振り返りの話し合いを行った。

(1) 参加者の振り返りから

1) 学習教育ワークショップ第1日目の参加者振り返り（シート記入）

①良かった点

- Outcomes baseという現代教育の状況説明が聞けた。Workshopというやり方が良かった。コーディネーターのすすめ方も素晴らしかったです。(人社)
- 他の職種の方と話し合いできたことは大変に良かったと思います。一臨床医としてやってきて、教育の事など正直考えたことがありませんでした。よい機会になりました。(医歯)
- 漠然と(経験として)考えていたことが、具体化されたように思います。短い時間でしたが、実践してみたいと思えました。(人社)
- 教育プロセスに対する不安や期待を持つ人が多いことに気づいた。分かり易い進め方と内容。(自然)
- 議論ができてよかったです。(他)
- 他の教官の方と知り合えたこと(医歯)
- 考えたことのない意見や、その分野の独特の意見が聞けて、自分が今後考えていく際に、いろいろ組み合わせたりできそうなので大変参考になりました。少し自分の考えにも幅が広がりました。(医歯)
- シラバスの作成方法、特に達成目標の設定のイメージがえがけたことがよかった。ワークショップの授業は初めてだったが、とても良かった。
- 様々な研究領域の先生方とコラボレーションする機会は非常に少ないので、貴重な体験をすることができました。WS形式のため、参加型で能動的になれました。(人社)
- 普段話をする事の少ない他学部の先生と話をする機会ができた。講義内容、方法について、改めて考え直すことができた。(人社)
- 学習理論については知っていましたが、今回、私自身がどのように授業改善をしたらよいかははっきりしたこと。そして、何を準備したらよいかは分かったこと。(人社)
- 他学部の方との交流が一番良かった。ファシリテーターを勉強できた。(医歯)
- 一期一会。(医歯)
- ワークショップという形式の会に参加できたこと自身が、新鮮で、今後の授業にも参考になった。目標達成型の授業や関連するシラバスの書き方を学べてよかった。
- 今後、授業の計画を練り、実施する上で色々と参考になりました。またワークショップ形式の学習は初めてでしたが、同じ大学の違った分野の方をお話する機会を設けていただいたことに感謝いたしております。(自然)
- 今後の授業のすすめ方の参考になった。(医歯)
- 今の方法論が、自分が学生のころと全然ちがうことが体験できた。シラバスが書けるようになって、

よかったです。(医歯)

- 他学部、他学科、他世代の諸先生方と話をすることができ、たいへん有意義でした。自分がついぞ受けることのなかった大学教育が、近年大きく変化していることを知り、驚いた。自分の子供をこういう大学に入学させ、勉強させたいなと思った。(医歯)

②改善の提案

- 具体的な例をあげて教えていただければと思います。(他)
- パワーポイントを配布資料としていただいた方が良かったと思います。新しいことも多いので、口頭説明だけでは理解できない点がありました。(医歯)
- 学説とか教育論とかについてのベースからの話があってもよかった。(自然)
- なかなか時間に追い立てられることが多く、時間内にうまく考えをまとめられないこともあった。時間の調節は難しいと思いますが、もっと考える時間があってもいいかなと思いました。(医歯)
- 発表時、手書き作成資料を投影できる手段があると、発表しやすい。(人社)
- 全体的にWS形式は知識が薄くなりがちなので、それを補充(参考資料などつける)して欲しかった。(人社)
- このワークショップのシラバスやレスンプランを配布していただいていると、さらにいいと思います。(人社)
- 医歯系だけなのかわかりませんが、教育学用語(?)でわからないことがあった。なんとか説明してもらえる時間を作ってください。どれがというのも難しいと思いますが。(医歯)
- 申し込み時に、簡単はプロフィールを求めて、グループ割付するのも1つの方法では。(医歯)
- 自分で学習する際の資料となるような文献リスト等があるとよい。考える時間がもう少し長いとよい。(他)
- 私のような初心者から、教育に関して高いレベルをお持ちの方まで様々な方がいらっしゃるように思います。到達目標は個人によってかなり異なるように感じますので、その点の配慮をいただけると、教える側、教わる側の能率が向上するのではないのでしょうか。(自然)
- もう少し、1つのテーマに時間がとれるとよいと思います。(医歯)
- 大学教育と、医師になる専門教育というものは、少し目的とする人材が異なるのかなと感じている。泊り込みで、1泊2日で行い、合宿方式にするとよかった。(医歯)

③その他気づいたこと

- Workshopのやり方、すすめ方、大変タメになっ

た。(人社)

- 工学力センターのように各部での進められている教育プログラムを全学とか学部を超えた進め方であってもよい。(自然)
- このワークショップにむけて、前もって予習しておけばよかったと思いました。
- 授業で成功した先生を招いて、経験を教えていただければと思います。(他)
- 昨日と今日と2日パッケージになっていましたが、この時期に2日間は少々きつい感もあります。(人社)
- シラバスの作成方法は、シラバスを作る前に説明していただける機会を設けていただけると良かった。(人社)
- アメリカなどでは、巨大なポストイットがありますよね。日本でも模造紙を使えばいいのだと分かったこと。(人社)
- 全学の教員の方は、受け持つ範囲(学生の要求)が広くて大変そう・・・。(医歯)
- 環境に配慮されていて良かった(お茶、セキュリティなど)。派閥をつくってはいけないが、2006年組とかあっても良いのでは。(医歯)
- シラバスの作り方には、医歯系の必修と全学の選択の物によって違うと思うので、そこを分けてもらえるとうれしいと思います。(医歯)
- この教育法は、金華玉条のように言われていますが、その方法は、今後きちんとevaluationされるのでしょうか。この方法で教育された若者は実社会に出て役立つのでしょうか(前に比べて)(医師要請としては、この方法はどうか?ということです。他の学部であれば、こういう大学に自分の子を入学させたいです)。(医歯)

④最後に一言

- 大変大事なガイダンスで良かったです。(人社)
- 時期を夏休みの早い段階でしていただいた方がよいと思います。例えば異動時など、もと早い段階で計画の連絡(告知)があると良いと思います。(人社)
- 参加してよかったと思います。(医歯)
- 教育は各先生方のオリジナルだと思いました。(自然)
- このようなWSを定期的で開催して下さい。(医歯)
- 次回はもっと深く考えが回るように、教育について多少なりとも考える時間をもちたいと思います。(医歯)
- 次回のワークショップを楽しみにしております。(他)
- 大変役に立ちました。ありがとうございました。(人社)
- どうもありがとうございました。(人社)

- BEは評価の方法がポイントだと思っています。大規模クラスの授業でどのような評価をイギリスでは用いているのか、具体的に知りたかったです。お疲れ様でした。ありがとうございました。(人社)
- お疲れさまでした。(医歯)
- 次回も出よう!(医歯)
- 丁寧な講義ありがとうございました。(他)
- 第2回目を楽しみにしております。(自然)
- 本当に良いファシリテーターになるのは大変ですね。(医歯)
- 新採用の先生に限らず、すべての先生が授業できるようにすると良いと思います。(医歯)
- 医者はある意味軍隊的組織です。上の言うことに疑問なく行動することも大切です。いちいち深く考える人は患者さんに不利益を与えることがあります。現場の求める人材との距離はないのでしょうか。(医歯)

2) 学習教育ワークショップ第2日目参加者の振り返り(シート記入分)

①今日気づいたこと

- レッスンプランが有って、講義資料が作成されるのであって、決してその逆ではないということ。
- 学生に考えさせるということの再認識。認知の最適化の重要性。
- 他の人のレクチャーを聞いて、授業の構成にもいろいろあって、考えれば何パターンもできるのではないかと思った。ただ、それを考えるマメさが自分には足りなそうです。今後もけっこう苦労しそうです。
- 自分授業が(10年前に見た時よりも)ましになっていたこと。ただ、まだまだ改善の余地がたくさんあることも同時に気づいた。
- 人数が少なく驚いたけれど、少人数の方がよかった。自分の話し方で学生相手に講義ができるんだという自信になった。授業内容は確かに問題だけど。

②今日うれしかったこと、満足したこと

- ワークショップIでは、まだまだ理解できていなかった加藤先生のレクチャーに対する理解がとても深まったこと。
- レッスンプランを立てることができた。適用・試行のイメージをつかむことができたこと。
- 他の分野の人の話が聞けたことがよかった。
- 通常の講義形式の授業にも、適用や試行の時間を取れるという話が新鮮だった。
- プレゼンの評価が高かったこと。

③今日不満に思ったこと、悲しかったこと

- 自分の日ごろの講義への準備がまだまだ不完全であり、その講義を学生に受けさせていることに対

する反省！！

- 自分の授業。しかし、得るものがあった。
- 他人のレクチャーを聞いていると、自分がこの場でレクチャーしてもいいのかと思い、悲しかった。自分の力不足が悲しい。
- 長いのですが、仕方ないかもしれません。
- ビデオのセットに時間がかかり、自分は工学部なのにお手伝いできなかったこと。

④今日言い残したこと、その他

- 学生と教員とのコラボレーションは、結局、いかに学生から“信頼”されているかということに依拠するのではないか。今日は少人数ということもあって、とても深く考えさせられました。
- この新任研修を自分の授業にどうあてはめていくかを考えなければならない。資料の使い方を考えたいと思います。人数が少なくて、よかったと思います。
- 授業計画を真剣に考えたので、次回に活かすことができれば幸いです。新しい考えを注入できてよかった。
- 久しぶりに学生になることが出来ました。教えていると気づかないことが分かります。
- 私は今、工学教育という仕事をしているのですが、教育学部とか全学教育と全く無縁です。工学教育って、教育学部がやるべきなのでは？ 高等教育という文科省の教育担当に、工学部の教員（科学者）たちが対応している現状を奇異に思います。

⑤大教センター参加者の振り返り

- レッスンプランを複数の人の前で作ってみる体験はいい！！
- 参加者が「集団」として機能することが実感できたことがよかった。
- 「新しい学習中心の教育への理解」への新しい試みの第一歩が踏み出したことがよかった。学習・教育ワークショップのモデルができ、大変ありがたいです。
- 参加者の多様な関心や要求に、どのようにつなげてワークショップを行うか、いろいろなプログラムづくりが必要だと気づいた。
- 自分自身がミニ授業を行う勇気がなかったことが悲しかった。
- 十分な協力ができなかったことが悲しかった。

(2) 省察のまとめと課題

全体的に、参加者の先生方の評価も好意的であり、「WS形式のため、参加型で能動的になりました。」という参加者の言葉どおり、何よりも教員自身が主体的にワークショップに参加していたことは、良かった点として評価される。

ワークショップ第1日目は、異分野の先生方がグ

ループになって、実際のところ議論が進むのだろうかという懸念がなかったわけではないが、むしろ所属を離れて、一教員として教育について、学習について話し合いが深まったように思われる。

「漠然と（経験として）考えていたことが、具体化されたように思います。短い時間でしたが、実践してみたいと思えました。」「学習理論については知っていましたが、今回、私自身がどのように授業改善をしたらよいかははっきりしたこと。そして、何を準備したらよいか分かったこと。」などの意見にあるように、学習中心の教育についての理解が、具体的な実践への適用への可能性に結びつけられたことは、企画実施したもものとして、期待した成果があったように思う。

今後の課題としては、①「参加者の理解を深める」ことを中心とした初めての学習教育ワークショップであったため、押し付けと感ぜさせない新情報の量や、あまり教育の専門的すぎない内容、そして提供のタイミングなどが難しかったが、配布資料などの補足分をもう少し増やしてもよいこと、②次回のワークショップでは、教育方法についてより具体的に提示し、かつ経験できる時間を盛り込むことが考えられる。

ワークショップ2日目については、前回ワークショップIの振り返りで、具体的な教育方法やレスンプランの作り方を知りたいという要望が多かったことから、より具体的で実践的な内容となるように構成した。

5人の参加者であるなら、少人数だからできる内容を計画した。具体的に、1人1人の経験や考えの振り返り、参加者自身が1つ1つの言葉の概念の掘り下げていくことに時間をかけた。分野の異なる参加者同士が共通概念を形成する時間、授業プランづくりの実演やそのレビューにも、可能なかぎり参加者による意見を引き出して作り上げる時間を十二分にとるようにした。

結果として、参加者の振り返りから、学習目標を達成することができたと考える。とくに、1人の参加者を例に、全員で「一緒にレッスンプランをつくってみる」時間を設けたことで、自分自身の実践にどのように適用できるのか、より具体的かつ実用的な理解を深めることができたように感じている。「人数が少なくてよかった。」「レッスンプランを立てることができた。適用・試行のイメージをつかむことができた。」という参加者の言葉は、一番の評価であると思っている。

今後は、参加者が増えた場合と同じような効果を得られるようにするためのプログラムづくり、および場づくりを工夫していきたい。

最後に、参加者からも「環境に配慮されていて良かった（お茶、セキュリティなど）」という意見をいただいたように、ワークショップの成功をにぎる重要な要素である「場づくり」をはじめ、協力、支援してくださった学務部教務課・教育支援係の方々に感謝したい。

資料 平成18年度新任教員研修プログラム

第1部 オリエンテーション

1. 目的：本学の教育理念および教育システム、組織と運営体制、教職員としての倫理や、健康管理の重要性などについて理解を深めるとともに、本学の執行部との意思の疎通を図る機会とする。(各項目別の目的等は、別添プログラム概要を参照)
2. 日時および場所：平成18年9月27日
9:30～17:00 本部4階 会議室
3. 日程
9:30～9:40 あいさつ (大教センター長)
9:40～10:10 本学の教育理念、本学教員に期待すること 担当：学長
10:10～10:40 新潟大学の教育システム 担当：河野理事
10:40～11:00 質疑応答
<10分休憩>
11:10～11:40 組織および運営体制の概要 (人事制度も含む) 担当：深澤理事
11:40～12:10 新潟大学の財務運営 担当：伊藤理事
12:10～12:30 質疑応答
12:30～14:00 昼食会 (グループ別自己紹介)
14:00～14:30 研究支援について 担当：板東理事
14:30～15:00 教職員が順守すべき各種ガイドライン (倫理、情報セキュリティ等各種ガイドライン) 担当：総務部
15:00～15:20 質疑応答
<10分休憩>
15:30～16:00 健康保健管理 (メンタルヘルスを中心に、セクハラなど) 担当：保健管理センター 七里講師
16:00～16:20 質疑応答
16:20～16:30 終わりに (大教センター長)

第2部 学習教育ワークショップ (第1日目)

1. 開催日時：平成18年9月28日 10:00～17:00
実施場所：国際センター交流室
2. 学習教育ワークショップの目的：新任の教員を対象に、学士課程教育としての教授学習のあり方および役割、目標達成型学習のための教育計画についての理解を深め、実践力の向上を図る。
3. 到達目標
このプログラムの修了者には、以下の能力および態度を身につけていることが望まれる。

(知識)

- ① 従来の教授中心の教育と、知識基盤社会に対応した学習中心の教育との違い、および後者の今日的意義について説明する。
- ② 目標達成型学習について、その意味を説明できるとともに、新潟大学の教育体制との関連性を明らかにする。

(スキル)

- ③ 目標達成型学習のための教育計画を設計する。具体的にシラバスの作成 (ねらい・到達目標の設定、成績評価方法および基準の設定など) など。
- ④ 目標達成型学習のための授業計画を設計し実行する。

(態度・価値観)

- ⑤ 学習者としての学生を尊重し、共に学びあう環境づくりを目指す。
- ⑥ 教授学習についての自分自身の目標を明らかにし、その達成を目指す。

4. 日程

- 10:00 開会・あいさつ
10:05 今日のプログラムの目標確認
○「学習と教育 (教授)」の意味と違い
○「何を教えるか」から、「いかに学びを深めるか」へ
○知識基盤社会を背景とした学習理論、学習観の変遷
○目標達成型学習の意味、本学の教育理念・教育体制とのつながり、国内外の動向における位置づけ
○「教授」と「学習」のバランス、目標達成型の学習はなぜ必要か、
○学習中心の教育における教員の役割、課題
- 12:10 昼食・休憩
13:00 目標達成型学習のための教育計画
大学の教育目標、自分の学部・学科の教育目標 (持参)、担当科目のシラバス (持参)
○シラバスとは何か、概念形成
○教育計画の実習 (個人作業でシート作成)
- 14:35 休憩
14:50 教育計画について全体討議
○学習理論に基づく授業計画
○全体ふりかえり (最初に期待したことは達成されたか。)
- 17:00 次回12月の案内と課題 終了

第2部 学習教育ワークショップ (第2日目)

1. 日時：平成18年12月26日
場所：国際センター (午前)、
大教センター (午後)
2. 目標：「学生の学習、理解を深める」授業づくりの基礎を習得する。

(知識)

- ① 授業観察の観点
- ② 学習サイクル理論に基づく授業計画の枠組み
- ③ 適切なコミュニケーションの理論

(スキル)

- ④ 授業観察およびピアレビュー方法

⑤ 「学生の学習」を深める授業プラン
(価値、態度)

⑥ ピアレビューによる授業改善の意義

⑦ 学生の理解を深める授業づくりの意義

3. 日程

10:00 あいさつ

10:10 今日の目標およびスケジュールの説明
ミニ授業ビデオ撮り、および授業観察の意義と手順の説明。

10:20 ミニ授業&授業観察・ピアレビューの実施
1人(授業10分、ピアレビュー、自己評価、シート記入10~15分)×5人

12:20 昼食+場所の移動(大教センターへ)

13:10 「学生の理解を深める」、「学生に考えさせる」
授業プランづくり

○ミニ授業実践、および授業観察の実施の振り返り

(日常の授業実践のふりかえり(疑問、問題点など)含む)

○(新情報)学習のサイクルに基づく授業プランの情報

○「振り返り(文脈づけ)、まとめ、課題(活動)、確認」のサイクル

○適切なコミュニケーション(グライス「協調の原理4つの公理」など)

○ミニ授業を変えてみる(1人を事例に、レッスンプランを再構成する)。

14:30 各自プランづくり

14:45 休憩

15:00 新プランの個人発表とレビュー

16:30 ふりかえり

17:00 終了